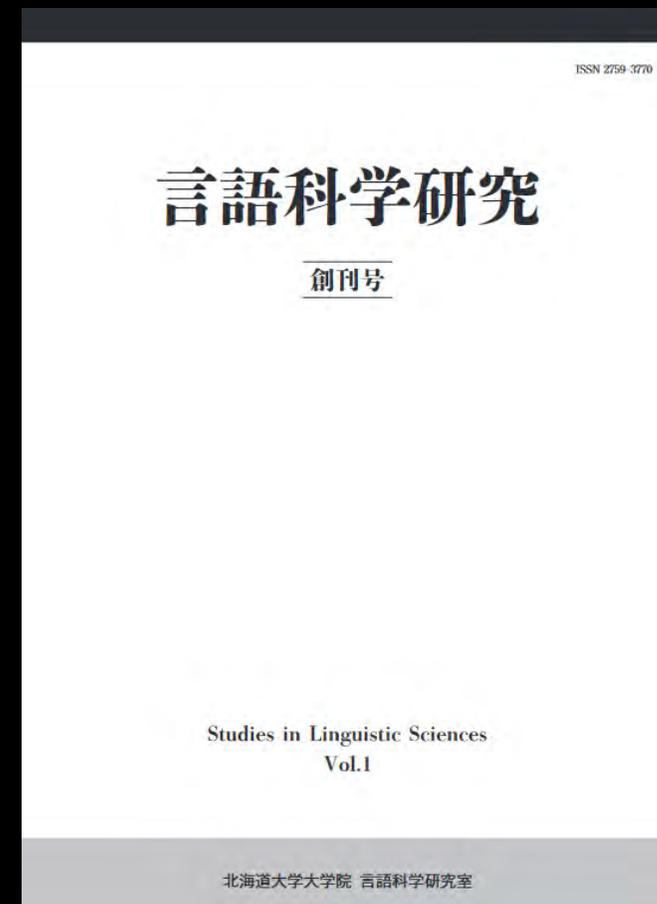
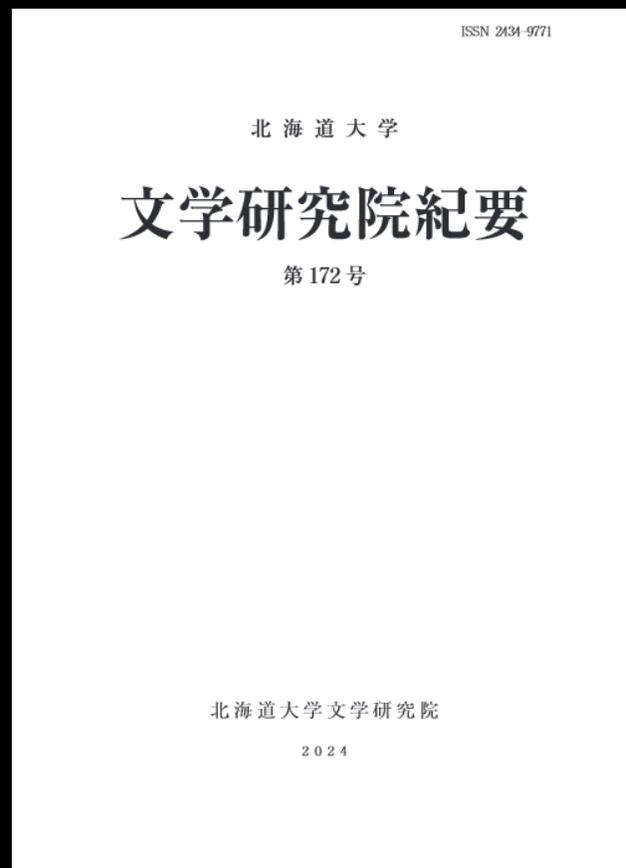
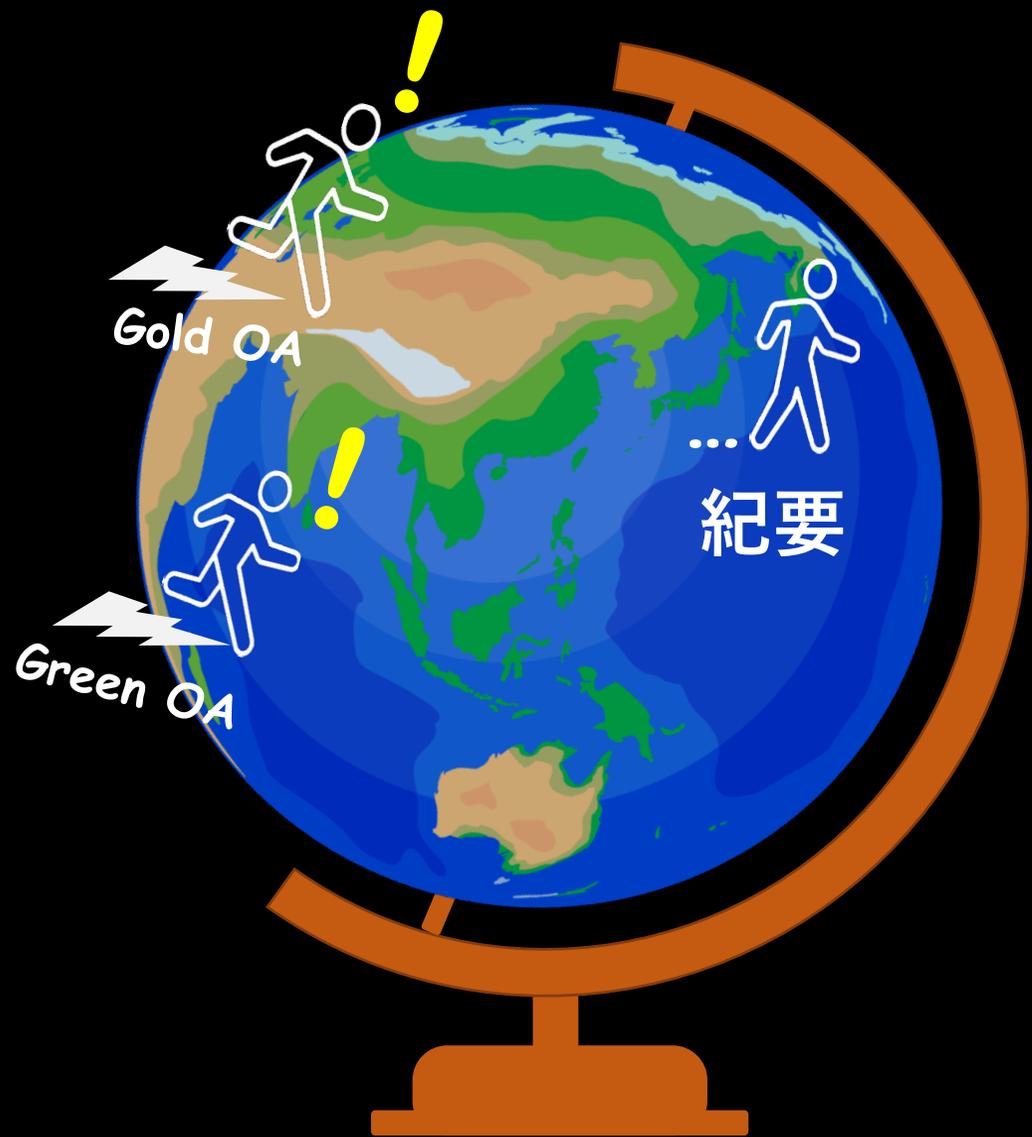


大学発ジャーナルはダイヤモンド! 「紀要」が世界の最先端



前田隼
北海道大学附属図書館

大学発ジャーナルはダイヤモンド! 「紀要」が世界の最先端



前田隼
北海道大学附属図書館

目次

- ・ダイヤモンドオープンアクセスに関する論のまとめ
- ・ダイヤモンドOAの国際会議の内容紹介
- ・北海道大学の機関出版例の紹介
- ・私見

(ときどき国際会議の情報が混じります・・・)

Global Summit on Diamond Open Access 2023)

自己紹介

- 2014 Wileyに20万払う（先生が）
2015 Springerに20万払う（はずが、invitedでゼロ円に）
2015.3 北海道大学 修了
- 2015.4 北海道大学附属図書館 事務職員
2016 Wileyに10万払う（私の給料から・・・）⇒ 2024.5の価格 45万
- 査読 数えきれない回（ボランティア）

私のスタンス：

- ・特にオープンアクセスの熱狂的推進者というわけではありません
- ・必要な手段が必要な時に必要な人に選択してもらえればよいと思っています
- ・研究者の業績評価を考慮しないオープンアクセス推進は効果が薄いと思っています（STEM分野）

オープンアクセスの種類

- ・ APC不要でオープンになる → ダイヤモンド
- ・ APCを支払ってオープンにする → ゴールド
- ・ 著者最終稿等をリポジトリに登録する → グリーン

Rising APC

\$1,626 ← \$904
2021 ← 2011

Morrison, H., Borges, L., Zhao, X., Kakou, T. L., & Shanbhog, A. N. (2022). Change and growth in open access journal publishing and charging trends 2011–2021. *Journal of the Association for Information Science and Technology*, 73(12), 1793–1805. <https://doi.org/10.1002/asi.24717>

参考)

2016

Wileyに10万払う (私の給料から . . .) ⇒ 2024.5の価格 45万
(*Geophysical Research Letters*)

即時OA

- ・ 日本でも2025年度新規公募開始分から
- ・ 論文とデータ

e.g., OSTP memo (US), UKRI (UK), Horizon Europe (EU)

OAの潮流が来ているのか？

- ・ APCは高い → ゴールドOA？
- ・ 機関リポジトリへの登録は手間 → グリーンOA？
- ・ IFよりも数 = 出版費用が安いところ

出版費用（APC）の高騰

→ 投稿先決定に際して、OAかどうかは第一要因ではない

大学発ジャーナルとは？

- ・ 紀要が代表的
- ・ 読者と著者に購読料も出版費用もかからない場合
 - ダイヤモンドOA出版と理解できる

ダイヤモンドOA

特徴・利点・課題

定義

ダイヤモンド・オープンアクセス（OA）とは、著者にも読者にも料金を請求することなく、研究成果をオープンに利用できる学術コミュニケーションモデルのこと。

（ダイヤモンドOAの確固たる定義はないが、本論での定義）

- 2020年時点で、世界におけるダイヤモンドOA誌の数は17,000～29,000誌と推計される
- ダイヤモンドOA論文の数は、非OA論文を含む総論文の8～9%を占めると推計される
- APC型のゴールドOA誌の約半数は西欧諸国から出版されているのに対して、ダイヤモンドOA誌の場合その約半数は中南米や東欧諸国から出版されており、西欧から出版されるジャーナル数は2割程度にとどまる
- APC型のゴールドOA誌と比べて、ダイヤモンドOA誌には人文学・社会科学分野のものが多く
- APC型のゴールドOA誌と比べて、ダイヤモンドOA誌は英語で書かれているものが相対的に少なく、かつ複数の言語で書かれているものが多く
- 概してダイヤモンドOA誌の著者は当該ジャーナルの出版国出身の者が多い傾向にあるが、ダイヤモンドOA誌の主な読者層は自国内に限定されず、国外からも多く読まれる傾向にある

これは紀要にもあてはまる

西川 (2023) <https://doi.org/10.15108/stih.00335>

原典 Bosman et al. (2021) <https://zenodo.org/records/4558704>

Despite the wide adoption of APC-based publication models, other models that are free for both readers and authors have existed for decades across the globe (e.g., Érudit, OpenEdition, SciELO). These types of models were recently rebranded by OA advocates as “diamond OA” (or sometimes “platinum OA) to promote “non-commercial publishing models for Open Access” (cOAlition S, 2020). While diamond journals often rely on various sources of funding, including in-kind support, voluntary labour, university and government grants, crowdfunding, donations, memberships, and shared infrastructure, many of them still struggle with breaking even (Bosman et al., 2021).

Simard et al. (2024) <https://doi.org/10.48550/arXiv.2404.01985>

**ダイヤモンドOAというものの見方、
理解の仕方が増えただけ？**

ダイヤモンドOAの広がり

2010年代後半より、Plan S に代表されるように APC 型の OA の抱える諸課題の解決に向けた取組が進められているが、2020年以降にみられるようになった (OA コモンズとしての) ダイヤモンド OA への注目の高まりは、OA に関する新たな潮流の兆しであると考えられる。このとき、前者が主に焦点を当てていたのは大手学術出版社が手掛ける STEM 分野の英語で刊行されるジャーナルであったのに対して、後者に関する取組では人文学・社会科学分野における英語に限らないジャーナルに焦点が当てられることも多い。特に最近では、論文にとどまらず、学術的な単行書をダイヤモンド OA として公開するための大規模なプロジェクトも登場している¹⁶⁾。

西川 (2023) <https://doi.org/10.15108/stih.00335>

The screenshot displays the COPIM website with the following content:

- copim** logo with social media icons (@ in x W).
- Text: "Copim is a community of people and organisations working to build a fairer, more open future for scholarly books. Together, we collaborate on community-led and values-driven initiatives, which help to support open access authors, publishers and readers. Use our site to find out more about us and our past and present projects, explore the initiatives, guides and resources we have developed and browse our documentation and software."
- Grid of initiatives:
 - copim**: Community working to improve OA book publishing (2019-)
 - Open Book Futures**: Research project (2023-2026)
 - Community-led Open Publication Infrastructures for Monographs (COPIM)**: Research project (2019-2023)
 - OpenBook Collective**: Charity enabling financial support for OA initiatives
 - THOTH**: Open metadata management and dissemination platform
 - OPENING THE FUTURE**: Funding model for OA books
 - Toolkit for Small and Scholar-Led Open Access Publishers**: Guide for smaller and scholar-led OA publishers
 - Experimental Publishing Compendium**: Guide to experimental publishing tools, practices and books
 - How to Implement an Equitable Revenue Model for Open Access Monographs**: Guide to running an Opening the Future programme at an academic press
 - PubPub**: PubPub site for project info, updates and open documentation
 - zenodo**: Archive of publications from our community
 - GitHub**: Repositories for our open source software

単行書も

May 2023: EU Council Conclusions

“Authors should not have to pay fees (..) Non-profit scholarly publishing models should be supported...”

→ 非営利で学术界主導（非出版社）のOA出版を加速

ダイヤモンドOAジャーナルの特徴と課題

小規模、多言語、散在

→ これを結び付けて大きな力にすることが必要

Keyword: equity, transparency, sustainability, community-led...

選ばれるのか？

投稿先の選定条件として何が優先されるか？

- ・ 出版方式（OA、クローズドなど）
- ・ 評価（IF：impact-factor ≡ 雑誌名）
- ・ 価格

選ばれるのか？

ダイヤモンドOA誌は Scopus, Web of Science (WoS) 等に掲載されていない場合が多い (Bosman et al., 2021; Khanna et al., 2022)

(私見)

- Findability (発見性) の低さとして議論されるが、著者や読者は本当に Scopus や WoS で検索するだろうか？
- むしろCitation Indexの計算など、業績評価のほうで問題になるのではないか

選ばれるのか？

研究者評価とOA

- 研究者評価とは

- 研究機関が、採用時・テニユア審査時・業績査定時等に、採用や昇進、昇給の有無等を判断するために行う (Review, Promotion and Tenure, RPT)

→ 評価方法は研究者の行動を制約する

- 現状

- 高IFジャーナル掲載論文が重視 → フルOA誌の回避 (購読誌への投稿)
- 被引用数が重視 → 高額なAPC支払の誘因
- 論文数が重視 → ハゲタカジャーナル投稿の誘因に

選ばれるのか？

もし Scopus も WoS も使わず、Citation Index を計算する必要もなく、ジャーナルのIFを気にすることもなければ・・・

ダイヤモンドOAという出版方式は有効

素地が重要

HEP (high-energy physics: 高エネルギー物理学) 分野

- preprint (arXiv) & オープンアクセス文化
「もともとこういうものだった」

文系

- 紀要文化
「もともとこういうものだった」
 - ← 出版形態という切り口で見るとダイヤモンドOA

ダイヤモンドOAを広める？

素地のないところにダイヤモンドOAという出版形式をアピール
ポイントにして広めようとしても難しい

→ (STEM分野) 投稿先の決定条件

素地が整っているところで、改めてダイヤモンドOAあるいは
機関出版の名のもとに発行をする

→ (文系分野) 紀要のブランディング

日本の外では？

- ・ UNESCO が推進

(オープンなインフラによる (私企業ではなく) コミュニティ主導の出版、equityの名のもとにAPCを課さない出版を推奨)

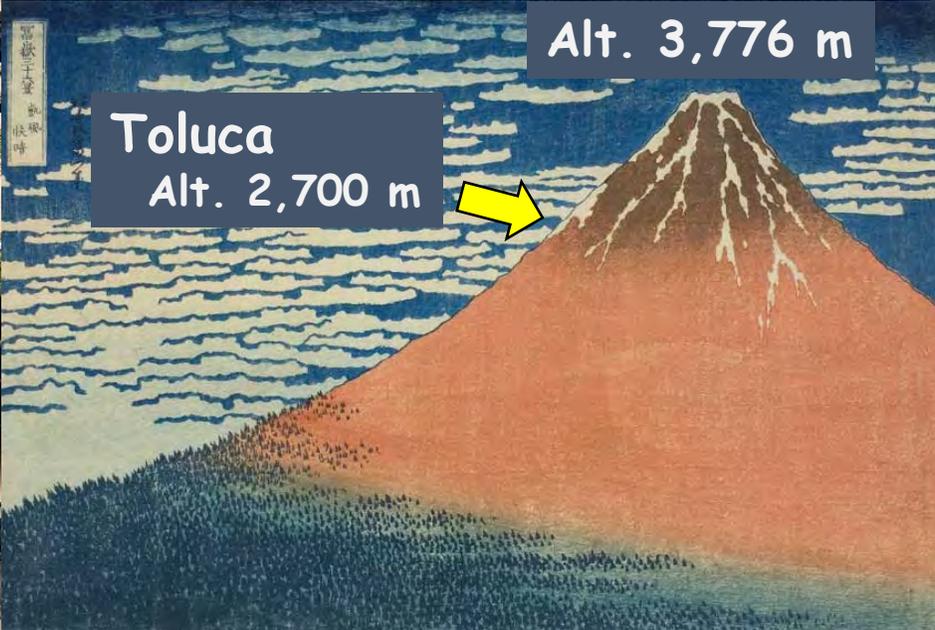
- ・ インフラはオープンソース

- ・ Capacity Center の設立

- ・ 資金問題は共通

Global Summit on Diamond Open Access 2023

2023 10/23-10/27, Toluca, Mexico.



背景にある考え（思い）

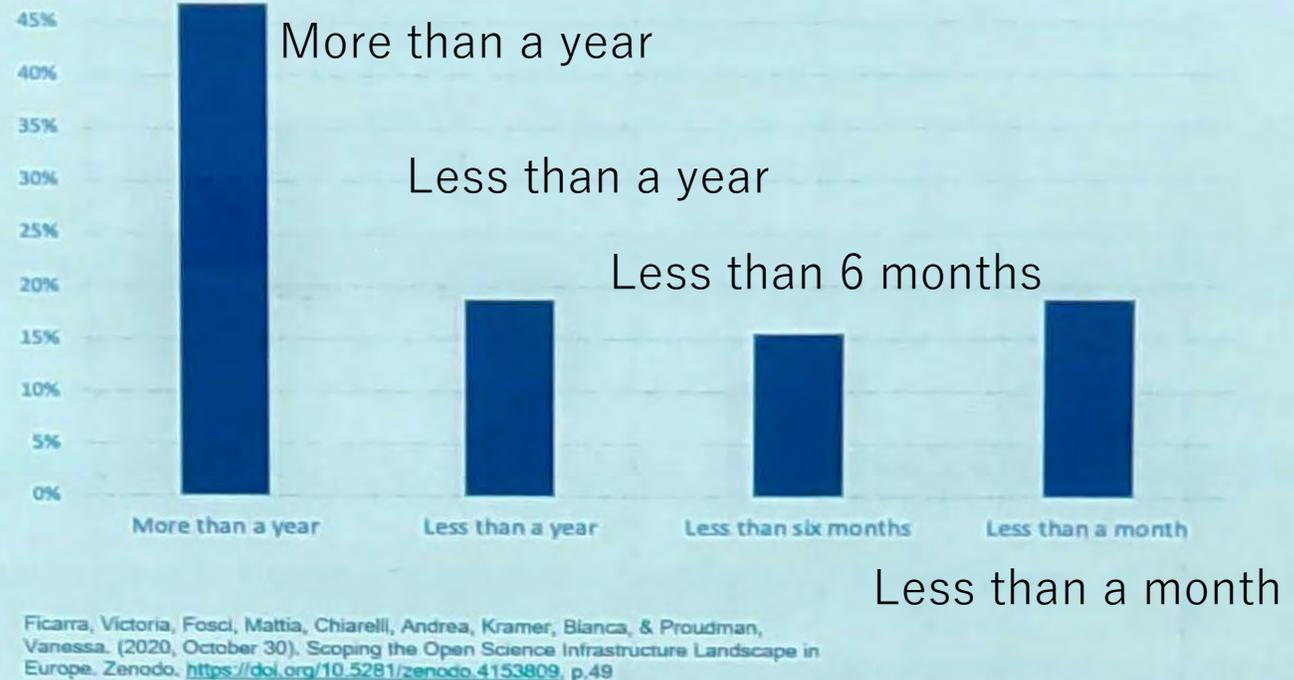


- 95 Journal / 2 FTE
- 図書館が自分自身で予算を持っていることはほぼないので、外部からの資金獲得が必要

“Labor of love. We have to stop doing this.”

金の切れ目が...の切れ目

W/out grants,
how long
remain viable?



SC²SS

- 運用コストを考慮しないと頓挫する
- 同じことをやるにも州によって、国によって費用が異なる。
米国→英国→インドでDOAJジャーナルの編集・刊行を行うようになってきている。
(=英国でファンドを集めて、労働力の安いインドで編集・刊行を行う)

インフラと資金

課題は「統合」

Together we are stronger.



- Diamond OA誌は数が多いので、Fundがいくらお金を持っていても、ちりばめると一つ当たりの額が小さくなる。
- 多くの団体・活動・イニシアティブが混在して、スピードとスケールに問題をきたす。
このままの体制では出版社の転換契約の先の動きに対応できないのでは。

どこかで統合する必要がある。

ガバナンス（運用と組織）

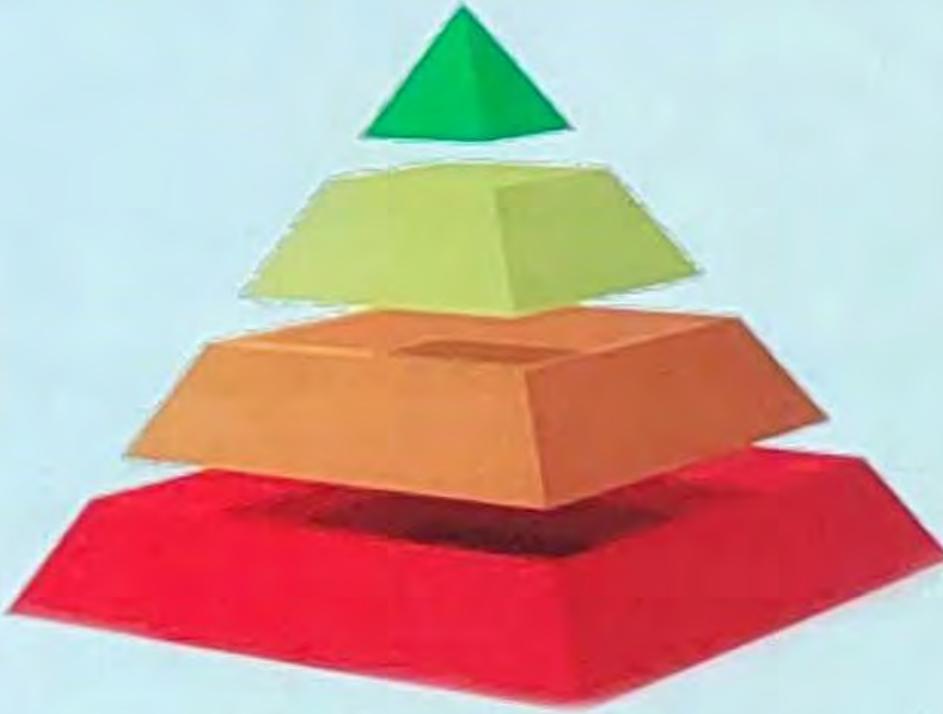
14.30 CST Plenary session

Governance and global federation of diamond open access

How do we build a globally federated diamond open access ecosystem? This session will discuss how to govern this ecosystem with respect for its diversity and decentralised nature, and what is to be gained from alignment.

❖ A globally federated structure that includes 4 levels

4つのレベルで世界をカバーする構想



Global	Diamond Federation (GDF)
Regional	Diamond Capacity Hubs (DCH)
National/ Local/ disciplinary	Diamond Capacity Centers (DCC)
Community	Diamond journals

タイプセッティング
著作権管理等の技術支援を行う

Diamond Journals と Capacity Centers で役割分担

- 地域レベル（ヨーロッパ）では European Capacity Hub（DCH）
- 国レベルでは Capacity Centers（DCC）



Journals

査読、採否決定

- ❖ Editorial and scientific work: soliciting reviews, making decisions.
- ❖ Apply international quality standards and guidelines.
- ❖ Ensure ownership over content and community-driven governance of the journal: continuity of editorial team and board.

科学コミュニティによるコンテンツの保持と編集ガバナンス

Diamond Capacity Centers (DCC) (first line help)

- ❖ Help journals with tools, administration, platform, copy-editing/ typesetting, finances, governance/ownership, guidelines, best practices, training.
- ❖ Help journals reach alignment with quality standards/ guidelines.
- ❖ Multilingualism/ national language(s) is/are handled at this level

多言語対応

品質基準、ガイドライン遵守の補助

著作権処理、タイプセッティング、予算管理等の補助

DCCの資金、人員の確保

Regional Diamond Capacity Hubs (DCH)

- ❖ Ensure alignment of DCC: pool resources at the regional level; coordinate services, standards, and practices
- ❖ Ensure complementarity and subsidiarity of DCC: streamline, create efficiencies, organize exchanges of electronic publishing specialists across the region

Global Diamond Federation

- ❖ Explore technological interoperability of platforms and adopt common technical standards.
- ❖ Explore exchanges of services and financial complementarity across regions.
- ❖ Support mutual learning between DCHs
- ❖ Set priorities for global expansion of Diamond OA.

DCHのマネジメント（資金、人員の確保）

日本では？

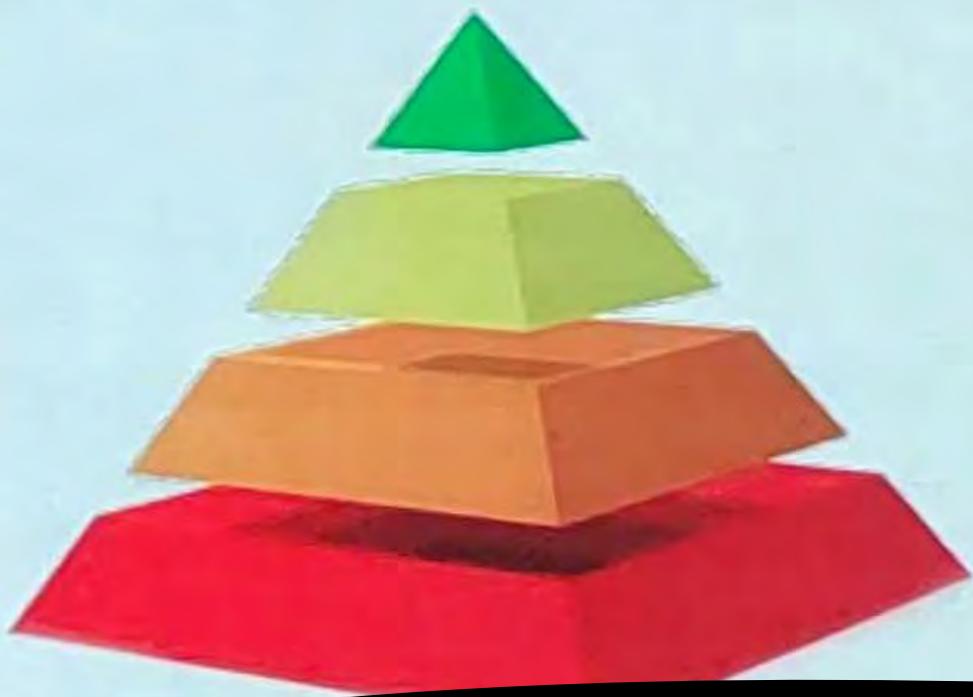


Capacity Center はすでにある？

「紀要が機関レベル、コミュニティレベルのダイヤモンドOA出版を実現してきた」と言えるのではないだろうか

機関出版という一歩

- ・ 信頼性が高い
- ・ うまくいけば持続可能性が高い
- ・ 一方で、受け入れられるかは分野による
(逆に言うと、受け入れられる分野ではうまくいく可能性が高い)



Global	Diamond Federation (GDF)
Regional	Diamond Capacity Hubs (DCH)
National/ Local/ disciplinary	Diamond Capacity Centers (DCC)
Community	Diamond journals

研究者と図書館 の協働による 機関出版

- 研究者（編集委員会、学内予算（編集出版費用））
- 図書館（出版プラットフォーム、出版事務）

機関出版：図書館が力になれるか

- ・マニュアル化がキー

既存の図書館業務とは異なる & 職員の異動

JJVR (Japanese Journal of Veterinary Research) ダイヤモンドOA誌ではないが機関出版の例

収入：

- ・ 北大獣医学研究院からの予算
- ・ 著者からの掲載料 (Publication fees)

課題：

- ・ 掲載料と出版経費が必ずしもバランスしない
- ・ 海外からの支払いは暦年配分
⇒ 執行額をコントロールする (収支均衡をめざす) のは難しい (2023年度から完全電子化したため、印刷費用が大幅に減った)
- ・ 査読インセンティブの検討 (アワード等)
- ・ プレゼンスの維持

図書館の担当業務 (抜粋)

- ・ 1号分の原稿が校了 ⇒ 印刷会社からデータが納品される ⇒ J-STAGEに登録・公開 (リポジトリでも公開) (紙媒体があった頃は、各方面への配布、海外も含めた図書館等への寄贈も)
- ・ 著者への投稿料請求等 (請求書の発行は部局の会計担当に依頼)



Japanese Journal of Veterinary Research

The Japanese Journal of Veterinary Research (JJVR) quarterly publishes peer-reviewed articles on all aspects of veterinary science. JJVR was originally published as a "University Journal" of veterinary science at Hokkaido University from more than 60 years ago. Currently, JJVR, is Japan's leading scientific veterinary journal, and provides valuable information for the development of veterinary science by welcoming contributions from researchers worldwide.

JJVR offers online submission for Regular Papers, Short Communications, and Review Articles that are unpublished and not being considered for publication elsewhere. Research areas include:

- Anatomy
- Biochemistry
- Microbiology
- Parasitology
- Internal Medicine
- Pathology
- Molecular Medicine
- Radiation Biology
- Wildlife Biology and Medicine
- Physiology
- Pharmacology
- Infectious diseases
- Laboratory Animal Science and Medicine
- Surgery
- Theriogenology
- Public Health
- Toxicology
- Veterinary Hygiene



Home

[View Articles \(2023-Present\)](#)

[J-STAGE](#)

[View Articles \(1953-Present\)](#)

[HUSCAP](#)

[Instructions for Authors](#)

魅力ある雑誌に！ダイヤモンドOA出版のブランディング

- ・ 読むのも掲載するのも無料
- ・ 高い認知度（何をもって？）
← すでに認知度の高い紀要はチャンス
- ・ 著者への統計フィードバック
（被引用回数に意味はあるのか問題...）
- ・ DOAJへの登録（これも痛しかゆしか...）

バランス

確かにダイヤモンドOAは、コストの抑制の可能性が高そう！

しかし、

掲載論文の質をどこまで高めるか、
著者や読者にどこまでのサービスを提供するか、
対価の支払われない労働にどの程度まで依存するか、などによってコストは変わる

こうした点は、ジャーナルの評価や持続可能性にもつながる点であり、
コスト抑制とのバランスが重要だろう

ダイヤモンドOA, その前に...

- コミュニティ主体のダイヤモンドOA（OAコモンズ）は日本で必要か/機能するのか [西川 (2024)]
- 日本の研究者コミュニティや図書館コミュニティに暇と元気はあるか？（私見）

私見（STEM分野でのダイヤモンドOAは前途多難）

査読は必要か / 機能しているか

→ 必要だが、機能しているかといわれると・・・

プレプリント文化、オープンレビューにヒントがあるのでは

→ 被引用数、IF等によらない業績評価が出版パラダイムを決めるキーではないか

私見（人文社会学分野でのダイヤモンドOA）

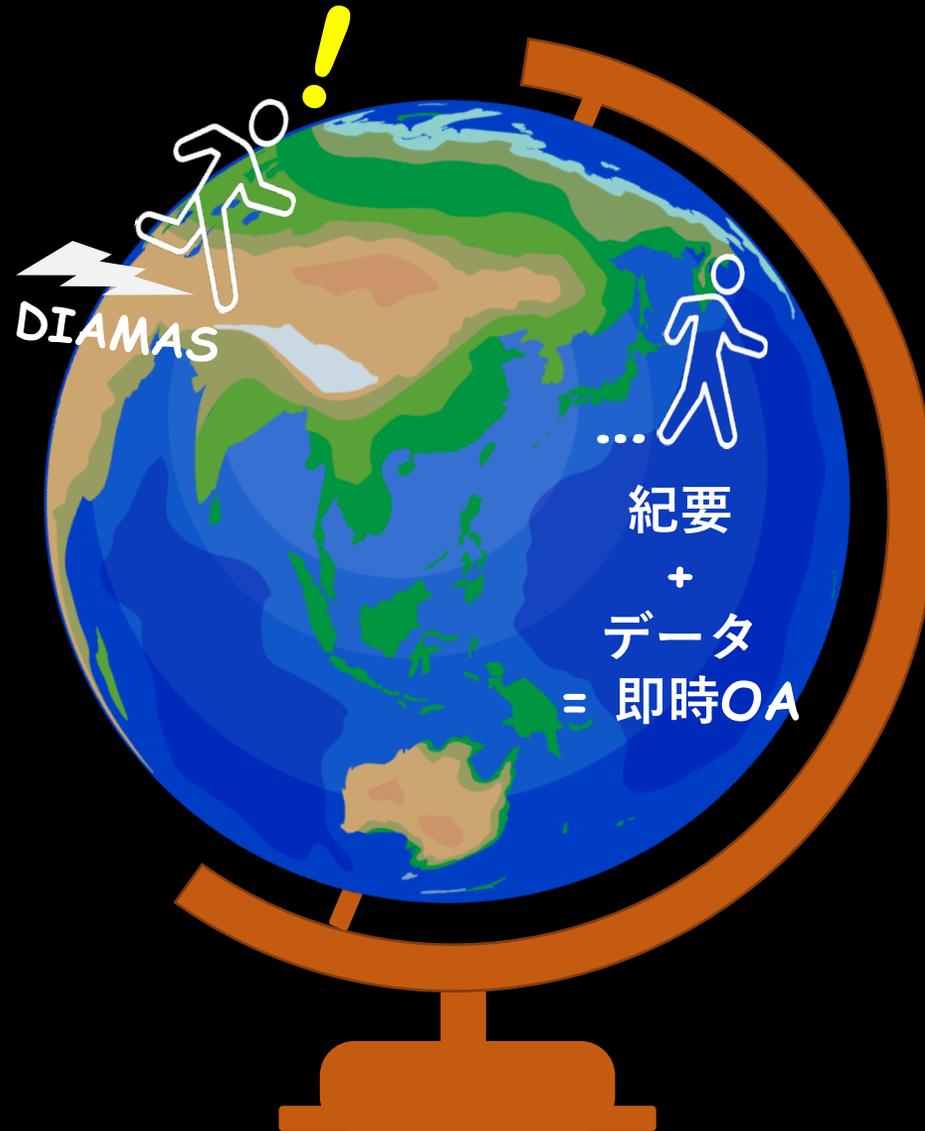
- ・ 紀要（論文） + リポジトリ（データ）

リポジトリを出版プラットフォーム & データ格納場所とし、
機関出版を超えて、データ保存も同時にできないか
（しかしデータの取り扱いが人文社会学分野のほうがハードルが高い）

→ 一気に CiNii Research で検索可能になる



ガラパゴスの進化でさらに最先端へ



流れを読み、舵を取ることが大事

- 日本はコツコツと紀要出版を続けてきた
- ガラパゴス的と言われるかもしれないが、長年変化なく続けてきたことが強みになった一例
(自身は変わっていないが、周りの見方が変わった)
- 特に人文社会学系は親和性が高そう
- この先、「紀要」として行くのか、ダイヤモンドOAとしてブランディングしていくのか、はたまたデータ保存との組み合わせで世界最先端に行くのか。

どの方向へ行きたいか？紀要の今後を考えてみよう！

References

西川開 (2023), 『ダイヤモンドOA:APCによらないオープンアクセスの国際動向』、STI Horizon, pp.25-29, 9 (2), <https://doi.org/10.15108/stih.00335>

西川開 (2024) オープンアクセスの国際動向とダイヤモンドOAの展開、学術情報流通に関する連続セミナー第2回、2024年3月7日、<https://www.ruconsortium.jp/asset/205.pdf>

設楽成実 (2022) ダイヤモンドOA誌出版のコストとスキル、図書館総合展2022年度フォーラム「多様化するOAの実現手段とその評価」、2022年11月14日、https://www.nii.ac.jp/event/upload/libfair2022_forum2_3.pdf

Bosman, J., Frantsvåg, J. E., Kramer, B., Langlais, P.-C., & Proudman, V. (2021). *OA Diamond Journals Study Part 1: Findings*. <https://doi.org/10.5281/zenodo.4558704>

Khanna, S., Ball, J., Alperin, J. P., & Willinsky, J. (2022). Recalibrating the scope of scholarly publishing: A modest step in a vast decolonization process. *Quantitative Science Studies*, 3(4), 912–930. https://doi.org/10.1162/qss_a_00228

Morrison, H., Borges, L., Zhao, X., Kakou, T. L., & Shanbhog, A. N. (2022). Change and growth in open access journal publishing and charging trends 2011–2021. *Journal of the Association for Information Science and Technology*, 73(12), 1793–1805. <https://doi.org/10.1002/asi.24717>

UNESCO. (2021). UNESCO Recommendation on Open Science OPEN SCIENCE.